



記者発表資料
平成24年3月7日
宮城県農林水産部水産業基盤整備課
公益財団法人ヤマト福祉財団

宮城県 養殖用資機材等緊急整備事業の助成先が決定 (県内の漁協・漁業者グループ等26団体に4億2千万円を助成)

公益法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富 慶二）「東日本大震災生活・産業基盤復興再生助成事業」の第1次助成先の一つである宮城県 養殖用資機材等緊急整備事業において、県内2つの漁業協同組合、24の漁業者で構成されるグループに対し、総額4億2千万円の助成を決定いたしました。

この度の震災では、養殖関連の共同利用施設や養殖業者が有する養殖施設、養殖物、養殖用資機材などが、ことごとく被災し、ノリ、ワカメ、ホタテガイ等の養殖業関係者の多くが収入源を完全に失うという危機に陥りました。養殖用資機材には、例として、1時間あたり最大1万枚の乾しノリを生産できる「ノリ自動乾燥機」、保存・塩蔵用にワカメやコンブを効率的に湯通しできる「ワカメ・コンブボイル釜」などがあり、それぞれ製品の生産には不可欠です。このため養殖用資機材等の整備に要する多額な復旧費用の確保が喫緊の課題となっていました。

養殖業の早期再開に向けて、これまで国、県による共同利用施設・養殖施設の修繕・整備や養殖用種苗の確保、協業等の新たな経営形態への支援が行なわれてきましたが、養殖用資機材の購入には、国の支援制度の対象とならない場合もあることから、この度の助成を決定しました。

現在、漁業関係者の努力により、一部においてカキとノリの生産が始まり、ワカメの刈り取りも行われています。また今年の4月には、ギンザケやホタテガイの水揚げが見込まれており、徐々に養殖が再開し始めています。今回の助成により、この復興への流れが加速され、養殖業の再生と、関係者の雇用が確保されることを期待しています。

今後もヤマト福祉財団「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」では被災地と連動し「見える支援・早い支援・効果の高い支援」をモットーに、一日も早い地元産業と雇用の再生を支援してまいります。

※ 公益法人ヤマト福祉財団「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」は、東日本大震災で被災された地域の生活基盤の復興や水産業・農業の再生を支援することを目的に創設されました。130億円以上が見込まれるヤマトグループの「宅急便1個につき10円の寄付」をはじめ、広く一般からも募金を募り、「見える支援・速い支援・効果の高い支援」をテーマに、単なる資金提供だけでなく、新しい復興モデルを育てるために役立てていくことを目指しています。詳細につきましては、ヤマト福祉財団のホームページ (<http://www.yamato-fukushi.jp/>) をご参照ください。

宅急便ひとつに、
希望をひとつ入れて。



ヤマトグループ

【本件に対するお問い合わせ先】

宮城県農林水産部水産業基盤整備課 担当：末永・阿部（022-211-2943）

公益財団法人ヤマト福祉財団 担当：早川・渡辺（03-3248-0691）

養殖用資機材等緊急整備事業 助成先一覧

事業主体 (2漁協・24グループ)
宮城県漁業協同組合所属 (21支所・22漁業者グループ) 気仙沼総合支所・唐桑支所・気仙沼地区支所・大谷本吉支所・歌津支所・志津川支所・石巻総合支所・十三浜支所・雄勝湾支所・石巻湾支所・女川支所・網地島支所・寄磯支所・石巻地区支所 塩竈総合支所・鳴瀬支所・宮戸支所・宮戸西部支所・松島支所・塩竈第一支所・亘理支所 石巻湾海苔共同・石巻市東部支所カキ業者・狐崎ワカメ業者・指ヶ浜支部・尾浦支部・竹浦支部・飯子浜支部・横浦支部・塚浜支部・万石浦支部・寄磯ホタテ養殖部会・寄磯ホタテ部会・給分大原養殖G・表浜小網倉G・矢本支所ワカメ養殖G・門馬G・石田G・千葉G・奥田G・齋藤G・鈴木G・赤間G
塩竈市漁業協同組合 (1漁協)
牡鹿漁業協同組合所属 (2漁業者グループ) 牡鹿漁協ギンザケ養殖団・牡鹿漁協ワカメ養殖団

整備予定 養殖資機材一覧

ノリ自動乾燥機、ワカメ・コンブボイル釜、ワカメ塩まぶし機、水中ポンプ、スカイタンク・発電機、フォークリフト、トラック・ユニック、タンクローリー等作業車両、作業用簡易テント、資機材保管用の上屋・プレハブ・コンテナ倉庫、ドライスーツ、採泥器、酸素計、万丈籠等
